

篤志献体団体千葉白菊会

千葉白菊会のあゆみ

1. 白菊会の始まり

昭和40年千葉白菊会は、白菊会本部（東京）千葉支部として、初代支部長斉藤利一氏が自宅を事務所に活動を開始した。

当初は会員数11名であった。



斉藤利一 初代会長

当時の解剖学の指導教授は福山右門氏であった。昭和50年からは嶋田裕教授、そして平成12年からは森千里教授が引き継がれ現在に至っている。

献体を理解いただき、1人でも会員を増やす為、活動開始当時は、担当教授、関係職員、千葉白菊会

の役員がキャラバン隊を組んで市町村役場や高齢者施設を訪問し、会員募集に苦勞をした。初代斉藤利一会長が29年間務めたあと二代目会長は山内彰吉氏が引き継ぎスムーズな運営になった。

2. その後の活動

白菊会の大きな目標は、献体活動を理解していただき会員数を増すことである。この目標を達成するには、関係者が一丸となって啓蒙活動を進める以外にはなかった。その為には白菊会として年1回総会の開催、会報も発行し、会員相互間の交流を深めることに努めた。又、他大学の団体ともお互い情報交換をしたり、全国大会にも積極的に参加した。そして昭和57年10月16日千葉白菊会として独立し、翌58年に「医学及び歯学の教育のための献体に関する法律」が制定され、一般社会にも献体運動が認知された。

3. 会員数の動向

昭和40年11名であった会員数も、昭和47年100名、昭和58年600名、昭和61年1,000名、平成8年2,000名を超え、平成22年9月末は2,145名である。

そして献体成願者も平成22年9月現在1,738名になり、大学の解剖学講座の学習には心配のない状態が続いている。



肉眼解剖学ガイダンス

4. 今までの大きな活動

- (1) 平成12年医学研究に関する承諾書を医学部長宛に提出するようにした。

これは正常解剖だけでなく、医学研究や標本にも自分の体を活用しても良いという主旨である。より献体の活用をして充実した医学教育を進めている千葉大医学部の取組みは千葉大方式として他大学へも大きな影響を与えた。

- (2) 会員が解剖施設見学

白菊会総会時に希望者のみであるが解剖学講座で使用している関連施設を見学した。



実習終了後の学生と懇談会



献体の碑とさるすべり

- (3) 医学部学生、医学薬学府大学院修士課程学生のガイダンス時に、白菊会役員が出席し、白菊会に入会した動機や理由を話したり意見交換を行っている。
- (4) 解剖学講座終了時に、学生と白菊会役員、指導教授、准教授等が軽食をとりながらの懇談会を開催している。
- (5) 亥鼻キャンパス校門前に「献体の碑」を建立(2004. 12. 21, 平成16年)し、年1回献体成願者名簿を奉納している。又年の初めには医学部主催で碑に献花式を行っている。

5. これからの白菊会

発足当初から白菊会の運営は白菊会役員の手で行って来た。

当初の目標であった会員募集については、在籍会員2,000名を超えたので達成できたと思っている。

これからは大学の関係部門が中心になって、より効率的に又今まで以上の内容で運営を行うことが最善であると考え、現在その準備を進めているところである。

白菊会は大学教育の為にある団体である。大学と白菊会の協力体勢は今まで以上に保つべきである。



千葉白菊会総会 学生代表挨拶

6. 千葉白菊会の課題

献体の主旨を理解していただける人達が増加したので、これからは正常解剖という一面だけでなく、より高度でかつ広範囲な教育と将来の医学、医療技術の発展の為にいかに会員が協力できるかを、大学と共に考えることである。